

「スタディツアーの感想」

7月末のミャンマースタディツアーに参加して帰国してからもう一週間が過ぎました。

偶々、昨日、8月6日は広島に原爆が落とされた追悼の日で、見ていたテレビ番組のテーマが被爆2世についてでした。

その中で耳に飛び込んで来たのは「自分の将来を自分で決める自由が無くなった被爆2世達」というものです。

彼らは親が被爆し、その後に生を受けて時には数年後に生まれてきた人々です。直接どころか、胎内被爆さえも受けていないにも関わらず、癌や異常な病気にならないだろうか、遺伝子に異常が無いだろうかという心配、又、それを理由に結婚も出来なかったり、という人生を歩んできたのです。

これを聞いた時、私は自分が如何に自由に生きてきたか、という思いに至りました。

更に、今回、JAMAHA がミャンマーの保育園に踊りもできる広い建物を寄付したことによって、その子ども達の親、特に母親達が安心して農作業をしたり、娯楽ができたりする自由を手に入れたこと、

孤児院にいろんな寄付をしたことによって子供達が安心して勉強し、努力すれば大学迄も行ける自由を得たこと、大学にピアノを寄贈したことによって、学生達が音楽にも理解を深めて、将来の仕事を選ぶ幅を広げる自由を得たこと等が考えられました。

今回のツアーでミャンマーの人々の自由が増えることに少しでも寄与できたことを感謝致します。

更に、今回はニットウェイ社長が日本語学校を始めたことを伺い、ご無理をお願いしてミャンマー人の先生がミャンマー人の生徒に日本語を教えるという貴重な場面を見学させて頂きました。

この見学では、目からうろこが落ちるような思いを致しました。

言語が異なるために教え方が異なる点(ミャンマー語には母音の種類が多い等)、促音という文法 語をしっかりと使っている点等、短時間でしたが随分参考になりました。

私が日本でボランティアとしてこれからも日本語を外国人に教える際に参考にしたいと思います。

本当に有難うございました。

田口暁子